

## 「県民活動団体との協働に関するガイドブック」について

### 1 作成の趣旨

地方分権時代に適合した県づくりに向けて



県民、市町村、県がともに力を合わせた

「自立・協働・循環」型の地域社会形成



一つの有効な方法として

県民活動団体と行政との協働事業の実施



円滑な協働事業の実施のために

- ◇ 協働の理解のためのガイドライン
- ◇ 具体的に協働事業を進めるためのマニュアル

が必要

協働ガイドブック（本書）の作成

### 2 本ガイドブックの対象とねらい

主たる対象は行政職員

- 県職員に対しては、協働の必要性や県民活動団体の特性についての理解を深めるとともに、協働事業の企画・立案の段階から実施、評価までの基本的留意事項等を示したガイドライン的な要素と、県事業における具体的な協働の事務手続き等を定めたマニュアル的な要素を盛り込むことにより、円滑に協働事業を進めていくことができるもの
- 市町村職員にとっても、協働を推進していく上での参考となるもの

## 県民活動団体の方にも

- 県民活動団体にとっては、県との協働について理解し、協働事業への取組みに向けて準備を進めていく上での参考となるもの
- 県民活動を支援する団体や機関が協働のコーディネートを進めていく上で参考となるもの

県民活動団体や市町村職員にも利用しやすいように「概要版」を用意

### 3 主な検討の視点とガイドブックの特色

#### 視点1：県民活動や県民活動団体について理解すること

「県民活動団体の特性」、「無償と非営利の違い」、「ボランティアとNPOの違い」等をなるべく分かりやすいようビジュアル化して説明

#### 視点2：「協働とは何か」を理解すること

「協働の基本的考え方」、「協働の基本原則、留意点」を詳細に記述

#### 視点3：県としての協働の推進方針を示すこと

協働を進めるべき事業はどのような事業か、市町村との関係や民間事業者との関係をどう考えるのかについて再整理し提示

#### 視点4：協働事業を進める際の手順を明らかにすること

協働の手順を詳述するとともに、事業フロー図も加えて分かりやすさに配慮

#### 視点5：協働の事業形態ごとの特色、留意点を明らかにすること

事業形態を6つに絞り、個別形態の特色・留意点の説明と、選択フロー図を用意するなど分かりやすさに配慮

#### 視点6：協働相手の県民活動団体を選定するときの着眼点を明らかにすること

基本的な考え方に加え、選定の際のチェック項目例を列挙

#### 視点7：協働事業の評価方法について示すこと

一般的な評価の視点のほか、県事業については、事業評価の具体的フローとチェックシートを提示